

# 運動への多様な関わり方を理解し、 できる喜びや友達と運動する楽しさを味わえる児童の育成 —「する・みる・支える・知る」の運動の視点を通して—



特別研修員 保健体育 越塚 光(小学校教諭)

## 児童の実態

・運動に対する苦手意識があり、運動への取組が消極的な児童が見られる。  
・考えたこと、分かったことを言葉で表現することに課題がある児童が多い。

## 教師の願い

・「する」だけではない、運動への多様な関わり方を理解し、できる喜びや友達と一緒に運動する楽しさを体験してほしい。  
・運動を通して、友達の良いところをほめたり、がんばっていることを伝え合ったりすることで、自分のよさや友達によさに気付けるようにしてほしい。

## 手立て1

運動への多様な関わりを促す四つの視点「する・みる・支える・知る」の提示  
学習課題の設定や、チームにおける作戦、練習、ゲームなど全ての学習場面において、四つの視点を意識して活動することができる。

## 手立て2

ICTを活用した振り返りによる学びの蓄積と全体共有  
自分とは異なる視点の気づきや、同じ視点でも異なる捉え方や考え方に触れることができる。

## 成果

・運動の「する・みる・支える・知る」という多様な関わり方を提示し、活動を継続したことで、体育に苦手意識をもつ児童も、運動への関わり方やチームへの貢献の仕方を理解して、できる喜びを味わう姿が見られた。  
・ICT(ワークシート)を用いて、児童一人一人の学びの蓄積や変容をクラスで共有することで、異なる考え方などに触れることができ、新たな学びや対話のきっかけにつながった。

## 課題

・四つの視点「する・みる・支える・知る」の中でも学びに偏りのある児童が見られたので、それぞれの視点のよさを伝え、深めていくことが必要であった。  
・振り返りでは、ICT(ワークシート)で他者の記述を「読む」だけでなく、全体で話す・聞くという対話的な活動につなげることで、学びが更に深まると考える。

## 単元名:「ソフトバレーボール」(第5学年)

### 手立て①「する・みる・支える・知る」の運動への多様な関わり方の提示

#### 四つの視点による理解・確認

**体育話し合いカード**  
「する・みる・支える・知る」  
自分のゲームへの関わりから気付いたことを伝え合おう!

**する(実践)**  
・キャッチ、アタック、トス、サーブ  
・守りのポジション  
・ボールを持っていないとき  
の動き方  
【思考ポイント】トスももう少し打ちやサーブの高さ・もうちょっと早く受けてボールの取り方、アタックの打ち方

**みる(観察)**  
・友達のプレーの良かったところ  
・友達の応援  
【思考ポイント】見ていて気付いたこと「この動きのプレーはかっこいい」「あの動きは自分もできたい」

**支える(協力)**  
・得点係などの役割で、練習やゲームの活動で支える  
・ゲームの準備、片付け  
・友達の応援  
【思考ポイント】ゲームを見ていて、良かったところ、友達の応援

**知る(理解)**  
・ルールを理解して、ゲームに取り組み  
・練習してわかったこと、作戦の意味を理解する  
【思考ポイント】どうしてこの動きを取れるか、工夫やポイント

#### 四つの視点を意識してチームで作戦タイム

「ナイス」の音がうれしかったから声を出し合おう。(支える)  
トスを上げるときは声を出すと分かりやすいね。(知る・する)



ボールが落ちる所にいなかったから、もう少しネットの近くにいたいよ。(みる・知る)  
守備のフォーメーションを決めよう。(知る)

#### 四つの視点を意識してゲームに関わる

作戦がうまくいったね。(知る)  
キャッチやトスも上手だったよ。(みる)  
得点係もチームの役割だね。(支える)  
協力して準備しよう。(支える)  
タイミングよくボールを打つことができたよ。(する)

運動における四つの視点(する・みる・支える・知る)の活動内容を明確にすることで、運動への多様な関わり方を理解する。

### 手立て② ICTを活用した振り返りによる学びの蓄積と全体共有

#### 本時の課題を設定



導入の場面において、前時の児童の振り返りの内容を全員で共有し、本時の学習課題を設定する。

#### 学習を振り返り、気付いたことを言語化

相手の投げ方や打ち方をよく見るとボールの来る場所が予想できた。(する・知る)

**広がる気づき 深まる学び**

第3回	する	どうやら仲間が振りやすいボールの手法が分かった。(いろいろな投げ方をした。)
第4回	知る	少し距離があるとあまり遠くにはいかないことが分かった。
第5回	見る	相手はトスをキャッチしてからの相手の投げ方がよく見えた。どこまで遠くに投げてくるか見たり、腕を振り相手の視線など考えてみたりしたりしたら点を取れるかもよく練習したり考えたりした。
第6回	する	段より前はキャッチができていなかったし、動まされた時は安心したし嬉しかった。

体育カードや他者の気づきを参考に、自分の考えを具体的に言語化。「する・支える」...仲間が取りやすいボールの力加減がわかった。励まされるとうれしい。【児童のワークシートより】

#### 他者の気づきに触れる(共有)

ボールが落ちるところの予想が大事なのか。(知る)  
私も声を出して友達を応援できた。仲間が取りやすい力加減が大切なんだ。(知る)